

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
漁業資源部 海洋資源科	資源評価調査 (TAC)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要資源 (アジ・サバ・イワシ類、マダイ、ヒラメ、ブリ、アムツ、イナなど) の各種調査 (生物統計調査、漁獲統計調査、産卵調査、新規加入量調査など) を行う。</li> <li>・調査結果は、平成23年現在の資源評価の基礎資料とする。</li> </ul>	受託研究	H12-
漁業資源部 海洋資源科	日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託 (ヨコワ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマグロ幼魚 (ヨコワ) やカジキ類の漁獲統計調査、生物統計調査を行う。</li> <li>また、得られた資料をもとに対馬地区のヨコワ漁況予報を発表する。</li> <li>・さらに、GPSデータロガーを用いてヨコワ漁獲状況調査を行う。</li> </ul>	受託研究	H4-
漁業資源部 海洋資源科	沿岸漁業高度化支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(新規事業) 海洋調査、生物生態調査をもって作成した漁海況情報を提供することにより、漁業者の所得安定を資するための側面的支援を行う。このため、既存の情報に加え、操業のコスト削減を図るために、漁場予測といった新たな情報作成に取り組む。</li> </ul>	経常研究	H26-H30
漁業資源部 海洋資源科	資源管理・漁業所得補償対策  (資源回復計画推進支援事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬周辺海域におけるアマダイ資源の評価を行うため、漁獲実態調査や生物統計調査等を行う。</li> <li>・対馬周辺海域におけるアマダイ資源回復計画の検討を行う。</li> </ul>	行政要望	H24-27
漁業資源部 海洋資源科	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各普及センターからの大型クラゲ出現状況報告を取りまとめ、関係機関へ発信する。</li> <li>・小型飛行機による大型クラゲの目視調査を行う。</li> </ul>	受託研究	H20-
漁業資源部 海洋資源科	沿岸漁業開発調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規や見直しを検討している2ヶ所の定置網漁場 (若松、石田) について、海底地形や流況調査に基づく診断、助言を行う。</li> <li>・昭和60年度から平成24年度までに得られた海底地形図をまとめた地域版海底地形図集を刊行する。</li> </ul>	経常研究	S61-

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
漁業資源部 栽培漁業科	重要資源育成支援事業	トラフグ ①有明海32万尾放流（全数標識） ②放流効果の推定 ・有明海当歳魚 ・外海域1～10歳魚（広域連携調査により効果を推定） ・有明海2～10歳魚 クエ ①資源管理手法の検討（県内5地区で検討会開催） ②種苗放流（県内5地区で計3万尾、標識、運搬） ③効果調査（市場での漁獲物調査など） ガザミ ①抱卵ガザミの産卵支援（橘湾5地区で0.4万尾蓄養） ②小型ガザミの再放流、効果調査（有明海1地区）	行政要望	H26-30
漁業資源部 栽培漁業科	ヒラメ資源回復共同放流推進事業	ヒラメ資源の回復を図るために、効果的な放流手法を確立するとともに、関係県との共同放流に向けた基礎知見となる放流効果調査を実施する。 ①標識放流 県内各栽培漁業推進協議会により、212千尾の標識放流。（鰭切除部位+ALC標識で区別） ②放流効果調査 県内主要市場において放流効果調査を行い、放流群別の混入率や回収率等の推定を行う。	行政要望	H23-27 (H20-22)
漁業資源部 栽培漁業科	放流種苗の評価基準づくり事業	放流効果をより高めるため、活力等の種苗の質を評価する手法を確立するとともに、放流効果への影響を明らかにし、放流種苗の評価基準を作成する。 ①放流効果への影響試験 ②放流種苗の評価基準作成	経常研究	H22-26
漁業資源部 栽培漁業科	クエ資源管理技術開発事業	漁獲実態や資源生態の基礎的な知見を明らかにし、資源の的確な評価を行うとともに効果的な放流手法の開発を併せて行い、適切な資源管理手法の検討を行う。 ①漁獲実態調査 ②資源生態調査（標識放流による移動回遊） ③標識放流試験 ④放流追跡調査 ⑤市場調査	経常研究	H23-27
漁業資源部 栽培漁業科	有明海漁業振興技術開発事業	有明海における水産資源の回復等による漁業の振興を図るため、クルマエビ、ガザミ、トラフグ等漁業生産上重要な資源について、放流技術の開発に取り組む。 ①標識放流 ②放流効果の推定 等	行政要望	H24-26 (H21-23)

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
種苗量産技術 開発センター 介藻類科		タイラギ：人工種苗生産による種苗技術開発、生産種苗の中間育成、養殖技術の開発を行う。	行政要望	H24-26
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科		○マガキ（シングルシード） 市販の生産されたシングルシードを用いて、種苗の重量別飼育試験等を行い、生産工程モデルとしての技術開発を行う。  ○アサリ（垂下養殖） 出荷時に殻長が35mmを超えるように育成するために、以下のことを行う。 ・大型アサリ（殻長30mm以上）を用いた試験 ・殻長が35mm以上になるまで、育成期間を延長する		H24-26 (H21-23)
種苗量産技術 開発センター 魚類科	良質な種苗の生産技術 開発研究事業	・クエについては、形態異常軽減化についてH25年度の再現試験をおこなうとともに、より詳細な成分の検討を行う。 ・クロマグロについては、初期生残率の向上を目指した飼育環境試験を行う。 ・カワハギについては、早期催熟採卵技術の安定化に取り組む。	経常研究	H23-27
種苗量産技術 開発センター 魚類科	養殖魚類の育種技術開 発研究事業	・トラフグの全雄生産技術開発では、平成27年度中に、超雄個体由来精子を用いた全雄生産を実施予定。 ・ホシガレイ全雌生産技術開発では、超雌個体の親魚養成を実施。 ・トラフグ早熟家系育種においては、さらに、早熟家系の交配試験・養殖試験を実施するとともに、この形質が遺伝形質であることがほぼ明らかになってきたので、今後、遺伝マーカー等の探索に着手予定。	経常研究	H23-27
種苗量産技術 開発センター 魚類科	天然資源に依存しない 持続的な養殖生産技術 の開発 「クロマグロの種苗量 産に向けた飼養技術の 高度化」	・クロマグロ健全種苗の生産に向けた飼餌料の開発と種苗生産期における仔稚魚の減耗防除技術の開発に取り組む。 魚類科担当部分：「仔稚魚の減耗防除技術の開発」で、①仔魚期から発生する共食い防除技術の開発、②種苗生産過程に見られる衝突死防除対策の2課題に取り組む。	受託研究	H24-28
種苗量産技術 開発センター 介藻類科	養殖貝類の優良高品質 化を目指した基盤技術 の開発	・貝類種苗生産におけるさらに効率的な技術、高生残マガキを作出するための親貝選抜方法を検討する。 ・照りが良い真珠やその真珠を生産したアコヤ貝の特性を検討する。	経常研究	H25-29

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
種苗量産技術 開発センター 介藻類科	貝類の新養殖技術開発	シングルシード（マガキ）の生産性を向上するため、夏場の付着物軽減対策等に関する養殖試験を実施する。	経常研究	H23-27
種苗量産技術 開発センター 介藻類科  環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	諫早湾貝類の漁場有効 利用技術開発	アサリ・タイラギについて、生産安定を図るため干潟や沖合い漁場を有効に機能させるための技術開発を行う。 1. アサリ漁場の底質改善手法 2. アサリの生残、成長、身入り状況調査 3. タイラギの覆砂・天然漁場等での生息調査等	経常研究	H24-28
種苗量産技術 開発センター 介藻類科	二枚貝資源緊急対策事 業委託事業（委託）	水研センター、有明4県の連携で、タイラギ人工種苗生産技術を活用した資源増殖法の開発を行う。本県等4県では親貝の分布状況の把握、育成方法等を検討予定。	受託研究	H26-30
種苗量産技術 開発センター 介藻類科  （藻場造成で は、漁業資源 部 栽培漁業 科 、水産加工開 発指導セン ター加工科と の連携）	環境変化に対応した藻 類増養殖基盤技術開発	・ 小型海藻を用いた藻場造成の効率化およびウニの密度管理と藻場の維持・拡大（栽培漁業科との連携）、小型海藻の利用によるウニの身入り率の改善等（加工科と連携）を検討する。  ・ 藻場モニタリング調査（H13～：野母崎）：藻場の変化実態を継続観察。 ・ 川養殖の安定生産を目的に、漁場調査および適正管理指導を実施（県南普及指導センターとの連携） ・ ヒジキ養殖種苗の供給を目的に、1) 陸上水槽での量産化、2) 大村湾等における育苗試験、3) ヒジキ群落の適正管理（適正な種苗採取量（範囲）と群落密度維持）手法の検討	経常研究	H25-29
種苗量産技術 開発センター 介藻類科	藻場回復技術実証推進 事業	・ 「磯焼け対策モデル地区」として、西海市大島地区（H23～27）と小値賀地区（H25～27）において、1ha規模の春藻場造成を実施 ・ 県内各地の磯焼け対策の取り組みに係る調査・指導等を実施	行政要望	H25-27
水産加工開発 指導センター 加工科	水産物供給体制づくり 技術育成事業	水産加工業者の技術向上を図るとともに、製品の開発・改良を支援  長崎県の有する独自技術、長崎らしさ、食べやすさ等をコンセプトとして、 1. 加工に関する指導（オープンラボによる支援、水試特許技術等の普及・指導） 2. 魚介類の品質に関する指導（輸送技術・品質向上に関する開発・指導） 3. 研究成果の普及（研修会・巡回指導・情報誌）	経常研究	H24-28

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
水産加工開発 指導センター 加工科	(新規) 主要魚種の価値を高める加工技術の開発	主要魚種の付加価値向上を図る 1. 高品質な冷凍商材の開発 新しいフィレやブロック商材に対応する技術開発、脂肪含量の簡易推定法の検討 2. 塩干品の品質向上技術の開発 冷蔵流通やバルク品に関する技術開発	経常研究	H26-30
水産加工開発 指導センター 加工科  養殖技術科	海外輸出に向けた活魚輸送技術の開発	水産物の輸出拡大を図るため、海水浄化システムを利用した活魚輸送装置を開発し、海外へ向けた輸送試験を行う。 1. 長時間輸送に伴う魚の生理反応の把握(陸上飼育試験、アンモニア濃度の測定) 2. 活魚輸送装置の調整 3. 浄化効率を向上するための試験 4. 活魚輸送試験	戦略プロジェクト	H24-26
水産加工開発 指導センター 加工科  養殖技術科	養殖魚の血合肉褐変防止技術(競争力ある養殖魚づくり推進事業)	養殖ブリの血合肉の褐変防止技術を開発する。 1. メト化抑制作用の解析 2. ビタミン類が血合肉の褐変に及ぼす影響を解析 3. 効果的なビタミン投与法の検討	行政要望	H22-27
水産加工開発 指導センター 加工科  介藻類科 栽培漁業科	(再掲) 環境変化に対応した藻類増養殖基盤技術開発	小型海藻の利用によるウニの身入り率の改善を検討する。 1. 小型海藻などの遊離アミノ酸を測定 2. ウニ生殖巣の遊離アミノ酸を測定	経常研究	H25-29
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	有害赤潮プランクトン等総合対策事業 ※旧:有害赤潮プランクトン等監視調査事業(国庫補助:食の安全・安心確保交付金事業) (国庫委託:赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業)	1. 赤潮発生監視調査 橘湾・有明海(5回)、諫早湾(6回)、佐世保湾(8回)、伊万里湾及び大村湾、薄香・古江湾の調査 2. 赤潮情報の収集と伝達 3. 貝毒発生監視調査(国+県) 浅茅湾・三浦湾、橘湾での貝毒とプランクトン調査 4. その他 ・現地研修会の開催	経常研究 受託研究	H24-28 (H19-23)
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	有明海特産魚介類生息環境調査	①諫早湾内の赤潮や貧酸素水塊の実態調査を実施。 ②ケアシエル土囊のアサリ稚貝の集積等の効果試験及びアサリ養殖密度比較試験を実施。	行政要望	H24-26
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	内湾漁場の有効活用技術開発	①小長井地先貧酸素関連の漁場環境調査 ②諫早湾におけるプランクトンの分布調査 ③五島のマグロ養殖場における春・秋季の濁りの原因調査 ④橘湾の貧酸素調査	経常研究	H22-26

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
環境養殖技術開発センター 漁場環境科	漁場環境保全対策費	①諫早湾内で粘質状浮遊物を形成する植物プランクトンの調査（春季調査4月～5月：毎週、秋季調査9月～10月：隔週）を実施 ②有明海で浮遊物が発生した場合、浮遊物発生状況調査を計画	行政要望	
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	戦略的養殖業を推進する技術の開発	H25年度の継続 1. 新魚種養殖技術開発試験 ・カワハギ飼育試験（陸上・海上 委託試験含む） ・クエ飼育試験（陸上養殖） 2. 肉質試験 （餌料、給餌頻度による脂質の変化） ・フリ脂質含量の分析、官能検査	経常研究	H24-28
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	魚病対策技術開発	H25年度の継続 1. 抗病性を有する家系探索 ①トラフグやせ病について 抗病性のある親魚候補の確保等 粘液胞子虫の生活環を調査 2. ウイルス性疾病対策 ①ホシガレイのVNN対策基礎研究等 3. 細菌性疾病対策 長崎大との共同研究（ヒラメ連菌症対策等） 4. 寄生虫疾病対策 クロマグロ住血吸虫の発生、生活環研究 5. 診断・指導及び研修等 魚病診断・指導 KHV検査	経常研究	H24-28
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	競争力ある養殖魚づくり推進事業	1. 低無魚粉配合飼料開発 ・マダイは低無飼料試験の抗病性について試験 ・トラフグは低魚粉飼料試験を予定 2. 地元からの提案による県特産品（夏みかん）等の添加飼料及び低魚粉飼料を用いた実証試験を支援	行政要望	H22-27
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	次世代型陸上養殖の技術開発事業（国委託研究）	低コストを目指し、現在の陸上養殖システムについて各要素技術を高度化、効率化を図り、先進的な閉鎖循環式陸上養殖の実証試験を行う。 26年度は以下の内容を実施予定 ・低コスト、高生産性を実現する新規ろ過システムの開発 ・自然エネルギー等利用による低コスト温調システムの開発 ・水質の評価と自動制御システムの開発 ・市場価値の高い魚種を用いた陸上飼育技術の開発	受託研究	H26-28

長崎県総合水産試験場 平成26年度試験研究概要

課題担当部科	課題名	平成26年度計画概要	研究種別	期間
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	「生産サイクルの早い」短期養殖推進事業	陸上養殖でトラフグの冬期加温による養殖期間短縮技術を開発	行政要望	H26-27
環境養殖技術開発センター 養殖技術科	養殖魚安定生産・供給技術開発委託事業（国委託研究）	抜本的な生産コストの抑制手法の開発 ・ブリ（1才）の低魚粉飼料・給餌頻度適正化試験	受託研究	H26-28
企画開発推進室	「開かれた総合水試」いきいき情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動総合水産試験場＜出前水試＞を開催。</li> <li>・他研究機関等から各種情報を収集するとともに、収集した情報や研究情報等をホームページ等により発信。</li> <li>・西海区水産研究所、長崎大学環東シナ海環境資源研究センターとの三機関合同で「ながさき水産科学フェア」を開催。</li> </ul>		H24-28 (H19-23)